

イタリア修学旅行
真実の口（ローマ）
March 03,2011 00:56



昨日の卒業式でお会いした保護者の方々から、
「イタリア旅行記はトイレの話でおしまいですか？」
と尋ねられました。

私は、ブログだけでなく、校長講話の草稿や学校PR用の原稿を書くときでも、
コンテンツ（内容）だけでなく、コンテキスト（文脈）を大事にしています。

イタリア修学旅行は見どころ満載でしたので、コンテンツには困らないのですが、
伝えたいことが多すぎ、コンテキストを整理しきれずに苦しんでおりました。

そこで、保護者の皆さんの言葉を言い訳にして、コンテキスト無視。
コンテンツ・オリエンテッドで書くことにしました。

ということで、最終日に訪ねたローマの「真実の口」を紹介します。



「真実の口」とは、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会（Santa Maria in Cosmedin）の入口に飾ってある、海神トリトネの顔を形どった石でできた大きな円盤です。



ただの大きな円盤です。私には、そうとしか思えません！
大昔のマンホールの蓋だったのではないのでしょうか？

実は前日の打ち合わせで「スケジュールが厳しくなっているので『真実の口』見学は割愛したいのだけれど・・・」と生徒たちに諮ってみました。

物凄い反発にあいました。コロッセオも見なくちゃいけないのにどうしようか？

仕方ないので、「朝早く起きて、早歩きで歩いて大変だよ」と投げかけました。
「大丈夫です」との元気な返事が返ってきました。



ガイドさんは一所懸命、教会の由来を説明しています。
一方、生徒たちは、既にカメラを用意して撮る気満々、スタンバイOKです。

教会入口の通路はバリケードで仕切られており、狭い通路を越えて
60人の生徒たちの列は外の歩道まで続いていました。



「真実の口」はしっかり撮影用にセッティングされていて、
円盤の前には、座って撮れる石の座席も用意されていました。

引率の先生方は私も含めて、生徒たちのカメラを両手にぶら下げて、
カメラマンを相務めました。マイ・プレジャーです。

それにしても、生徒たちの幸せそうな顔。とっっても、満足げな顔。
生徒たちが喜んでくれるなら、幸せなら、先生たちも幸せです。



教会の中も見学しました。
以前は「真実の口」だけ見学して帰る観光客が多かったので、
教会を通らないと帰られないような順路に変えたそうです。
なるほど、ムベなるかなです。



最後の写真は、旅行団長の覚（サトル）先生です。エンタティナーです。
「あー、ぬ、抜けないっ」というパフォーマンスです。

なお、ガイドさんに伺ったところによると、この円盤「真実の口」は
数年後には博物館に移されてしまう可能性があるそうです。

いずれ、ガラス越しに観ることしかできない時代が来るとすれば、
Dッ娘たちが記念撮影にこだわったことは先見の明かもしれません。